

第 20 回都道府県 がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 議事要旨

日時：2023 年 5 月 26 日（金）13:00-16:00

開催形式：オンライン開催(Zoom ミーティング)

※スライド番号は部会前に共有した資料番号およびカッコ内に再掲載したスライド番号を合わせて記載しております。ご参照ください。

1. 開会の挨拶

（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 議長／国立がん研究センター 理事長 中釜 斉）

現在、日本では第4期のがん対策推進基本計画が進められており、大きな柱として、がんの早期発見・予防、がん医療の充実、がんとの共生の3つが立てられている。がんとの共生の柱の中には、相談支援・情報提供の充実、がん患者さんのサバイバーシップの支援、また本日のテーマであるアピランスケアの課題の克服等が挙げられている。

さらには3つの柱の基盤として、がんに関する知識の普及啓発の重要性がうたわれているので、当協議会の情報提供・相談支援部会の果たす役割、取り組むべき課題は非常に大きいと思われる。そのためにも施設間での連絡、情報共有をさらに推進し、課題の解決を図っていくことが求められている。

本日は是非皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

本日の出席者について

（情報提供・相談支援部会事務局／国立がん研究センター がん対策研究所 宮本 紗代）

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者の方々、計119名の皆様に加え、小児がん拠点病院相談支援部会の相談員の皆様、議事に関わる研究班の皆様オブザーバーとしてご参加いただいている。

オブザーバー紹介（がん対策研究所 宮本）

北海道テレビ放送株式会社東京支社 編成業務部長／SODANE 編集長 阿久津 友紀 様
NPO法人 AWAがん対策募金 理事長 勢井 啓介 様

2. 本日の概要 **資料 3** スライド 2～3

（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 部会長／

国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部長 井上 真奈美）

3. 第 4 期がん対策推進基本計画とアピランス支援モデル事業について **資料 3** スライド 5～17

（厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 戸石 輝）

4. PDCA 実施状況チェックリストの今後の活用方法の検討

・NCC から検討内容の共有 **資料 3** スライド 19～32

（情報提供・相談支援部会事務局／国立がん研究センター がん対策研究所 小郷 祐子）

・ディスカッション **資料 3** スライド 33 (進行：がん対策研究所 井上)

(がん対策研究所 井上部会長)

ここからはディスカッションの時間としたい。実際にPDCAのチェックリストができることを想定して忌憚のないご意見をいただきたい。まずは藤先生からコメントをいただければありがたい。

(九州がんセンター 藤先生)

昨年末からがん診療連携拠点病院の評価方法や評価指標策定に関する研究班をスタートしており、連携拠点病院が十分機能し、進展しているのがわかる指標の作成を目指している。

その中で、拠点病院制度に大きな役割を果たしている相談支援・情報提供の項目の評価も必要だが、相談支援のPDCAのチェックリストというのは既に評価指標の位置付けにあると思われるので、当研究班もそれと連携して、項目をピックアップしながら評価指標を作成していきたい。

(がん対策研究所 井上部会長)

現場の負担減のためにも、多くある項目を必要なものだけに減らすことは重要であるし、評価指標の作成には藤班と当部会との連携は大変重要だと思う。

(国立がん研究センター 中釜議長)

相談支援の課題として、まず相談支援センターを知ってもらうことが重要だと思うが、がん専門以外の病院ではずっと課題になっていることなので、うまい工夫があれば教えていただきたい。

(九州がんセンター 藤先生)

皆さんが周知に関して大変な努力をされているのは知っているが、残念ながらそれが結果につながっていない。そのことがわかるような指標をつくる必要もあるかもしれないが、外への周知以前に、病院スタッフが相談支援センターのことを知らないという現状もあるので、スタッフの認識が進んでいくような指標の作成も考えている。

(琉球大学病院 増田委員)

ディスカッション項目の1と2は賛成だが、3の「反映したらPDCAチェックリストは発展的解消」というのは反対。藤班の評価指標に情報提供・相談支援のチェック項目がたくさん入るわけではないので、相談員の方が日常的なチェックをかける意味でもやはりチェックリストは必要ではないか。

(がん対策研究所 井上部会長)

確かに発展的解消としないほうがいいかもしれない。ご意見があればお願いしたいが、その前に事務局に「普遍的で大事な項目に絞る」というと、どういふものが残っていくのかお聞きしたい。

(がん対策研究所 小郷)

これは、拠点病院の区分にかかわらず普遍的に重要と思われるもの、という意味なので上位10項目に挙がっているものは全部該当する。まず周知関連のものは残す必要があるし、相談対応において活用する情報の精査についても現場では重要視されているので、そういったところを中心に残していくことになるのではないかと。

(がん対策研究所 八巻)

今回皆様に選んでいただいたものはワーキンググループでも多く議論された項目だったので納得のいく結果だと思う。資源や研修の機会が提供されることは、直接的な成果につながらなくても根本的な重要性があるので、増田先生のご指摘については、チェックリストはある種発展した形で、ボリュームは小さくなりながら残っていくのが現実的なものかもしれないと考えている。

(京都府立医科大学附属病院 谷口委員)

がん相談支援センターの実務者としては、院内連携がしっかり確保されていれば動きやすいが、そのあたりのことを相談員から管理者へ働きかけるのは大変で、負担が大きい。何かいい方法があればお聞かせいただきたい。

(がん対策研究所 井上部会長)

何かいいご示唆があればお願いしたいが、この部会においてそういったテーマで議論することも必要かもしれない。そもそも相談支援センターが認知されていないので、アプローチしていただくにはどうしたらいいかというのは喫緊の課題。そしてPDCAを回す上では施設内でのさまざまな課題もあろうかと思うので、今後もそのような課題に焦点を当てて課題解決に努めていきたい。

5. 都道府県協議会の役割に関する先駆的取り組みの共有～情報提供・相談支援の立場から～

・県内のがん治療提供体制の把握や公表に関する取り組み ～がんサポートサイトえひめの歴史～

資料 3 スライド 35～60 (35～62)

(愛媛県がん診療連携協議会・がん登録専門部会 部会長

/四国がんセンターがん予防疫学研究部 寺本 典弘)

【質疑応答】

(がん対策研究所 井上部会長)

愛媛県では患者さんが診断直後で動転しているときにサポートサイトをお伝えしているのだろうか。患者さんがサポートサイトに到達するのにどのようになさっているのか教えていただきたい。

(四国がんセンター 寺本先生)

これは完全に解決できていない問題でもあるが、患者さんががんと診断されて治療先の病院を決めるまでには通常わずかの時間しか与えられていないので、診断されてからだと遅い。診断される前にアクセスしておかなければいけないので知名度を高めていくことが必要。今後は毎年検診時に15000部のリーフレットを配る予定なので、わかりやすく伝えていきたい。

・静岡県における小児がん長期フォローアップ体制整備の取り組み **資料 3** スライド 62～96 (64～98)

(静岡県立こども病院 小児がん相談室 加藤 由香)

(静岡県立総合病院 緩和ケアセンター 鈴木 かおり)

6. がん相談支援センターで取り組むアピアランスケアについて **資料 3** スライド 98～117 (100～119)

(国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター 藤間 勝子)

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について **資料 3** スライド 119～138 (121～140)

(相談員研修事務局／国立がん研究センター がん対策研究所 高橋 朋子)

8. その他

1) オブザーバーからのコメント

北海道テレビ放送株式会社東京支社 編成業務部長／SODANE 編集長 阿久津 友紀 様

私自身が乳がん患者であり、がん患者の家族・遺族でもあり、4期の対策委員にも入らせていただいているが、情報の大切さを痛感している。

愛媛のサイトのQ&Aは非常にわかりやすいし、町の身近なデータがわかるのは非常にすばらしい。また静岡の取組みのように、実践された取組みをひな型にいただければ、エリアごとにカスタマイズできるので患者にとっては大変ありがたい。また相談支援センターのオンライン化も、相談する側・される側共にハードルが下がるというプラス面が考えられるので是非ご検討いただきたい。そしてやはり相談支援センターにつなげることが一番の課題だが、まだハードルが高いので患者からすると誰かにつなげていただかないと難しい。またがんへの恐怖、偏見といったものもあるので、愛媛県のように再検査に行く前に相談支援センターをお知らせいただくことは大変いい方法だと思う。

患者にとっては相談員の皆様が何よりの頼りなので、是非今後も応援させていただきたい。

NPO法人 AWAがん対策募金 理事長 勢井 啓介 様

今日は、ケアと言っても心のケアから外見のケアまでたくさんあることを勉強させてもらった。私どもの法人ではいろんな方に入っていただき、子どもたちへの出前講座等を12年続けているので、一度この地域のがん罹患についてのデータを集めてみたい。今後も行政、医療関係者、学校等と連携して活動を続けていければと考えている。

本日はありがとうございました。

2) 連絡事項 資料 3 スライド 140 (142)

9. 閉会の挨拶

(がん対策研究所 井上部会長)

本日はいろいろな分野の方からアイデアやコメントをいただいたが、事務局でもこの課題をしっかりと整理して、課題の克服や発展に向けて今後さらに頑張っていきたい。これからもさまざまなご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひしたい。

本日はお忙しい中、当部会にご参集いただき誠にありがとうございました。

以上